

渡辺東洋と平尾賛平

静岡藩立の沼津病院は、当初は沼津兵学校に併置された陸軍医局として発足したが、後に静岡病院の傘下に入り別組織となった。頭取（院長）杉田玄端の下、そこに配属された医師には幕府陸軍の軍医だった旧幕臣と、地元で採用された平民出身者とが混在していた。駿東郡原宿（現沼津市）の町医者だった渡辺東洋は現地採用者の一人である。

明治二年（一八六九）刊行の『沼津御役人附』、翌年刊行の『静岡御役人附』の沼津病院の箇所に東洋の名前は掲載されていない。兵学校資養生の一人が残した名簿には「渡辺東陽」とある（『史料紹介 沼津兵学校人名簿』『沼津市博物館紀要』21）。三等医師並の肩書だったことは大正期に活字化された「沼津兵学校沿革（六）」（『同方会誌』43所収）に掲載されているが、た



沼津病院跡記念碑

沼津市西條町
2019年1月建立

ぶん採用は明治三年か四年以降のことだったのであろう。東洋は、俳人もあった原宿の町医者渡辺格斎（希鳳）の息子だったよう

で、父の稼業を継いだらしい。格斎の学統は不明であるが、文久二年に入門した今沢村の医師酒井教順は彼に「内科外科医業」を学んでいる（『沼津市史料編近代1』）。明治五年（一八七二）二月の原宿西組「戸籍人別取調帳」（いわゆる壬申戸籍、当館蔵・渡辺本陣文書）には、「沼津病院寄留 久平二妹やゑ倅 長男 東洋 年二十二歳」と記されているので、東洋は廃藩後も会社組織によって存続した沼津病院に住み込みで勤務したことがわかる。戸籍からは、彼が原宿の脇本陣若狭屋・組頭渡辺久平の甥だったことも判明する。

杉田玄端は六年（一八七三）一二月に沼津を去り上京するが、東洋はそれを追ったようで、七年（一八七四）三月二五日、二三歳の時、玄端を身元保証人として慶応義塾医学所に入學した（『慶応義塾入社帳』第五巻）。同医学所は、六年一〇月に福沢諭吉が開設したもので、教師兼監事として玄端の次男杉田武らが勤務したほか、併設された診療所の主任を玄端がつとめた（『福沢諭吉伝』第二巻）。新聞広告によると八年（一八七五）、東洋は玄端・石井信義らとともに東京神田に玄端が開いた尊生舎診療所の医師をつとめていたことがわかっている（『郵便報知新聞』明治八年七月一三日）。玄端は慶応義塾医学所生徒の実地指導も行ったという（北里文太郎『慶応義

塾医学所（下）』『日本医史学雑誌』第一三二〇号、一九四二年）。東洋は玄端の下で学生として医学の勉学をするとともに、医師の仕事もしたのである。

東京時代の東洋は、静岡出身のある実業家に商売上のヒントを与え、彼を輝かしい成功者へと導くことになった。その実業家とは、駿府の間屋役・伝馬取締役などをつとめた有力商人平尾清一郎の一族だった平尾賛平（一八四六〜一九七）である。賛平は上京する前の明治初年には、駿河府中藩の府中奉行中台信太郎から沼津の「生育方用達商人の手伝方」や「帳簿方」に任命され、清水に在勤して大阪・兵庫・堺・岡山などの各地で米穀の買い取りを担当した（『東洋実業家詳伝』第式編）、あるいは「静岡常平倉長渋沢栄一（男爵）の庇護の下に藩米の現物売買を為し又た沼津兵学校の賄方」（『東海三州の人物』）をつとめたなどとされ、さらに別の説明のし方では、沼津に置かれた「徳川家常平倉」の「勤番」や「三井組の静岡藩為替御用」の出張所勤務を命じられた（『平尾賛平商店五十年史』）という。つまり、静岡商法会所



平尾賛平

『実業人傑伝』第一巻より

および沼津兵学校の管理部門である陸軍生育方が開設した沼津商社会所の御用達だったのである。東洋と贗平とは、すでに沼津で知り合っていた可能性がある。やがて上京し、三井組に勤務した後に独立した贗平は、一一年（一八七八）頃、「知人渡辺東洋」から「香水の製法を授けられ、「小町水」という香水の製造・販売に乗り出し、コレラ除けの匂い袋なども手広く扱い、医薬品業界で大成功をおさめることになった。平尾は岳陽堂の屋号を名乗り、後年は息子が二代目贗平を襲名した。

東京で商売を拡大していった平尾贗平に対し、東洋は静岡県にもどったようである。一五年（一八八二）時点では駿東郡佐野村（現裾野市）の駿東病院第二出張所詰で、松本順の演説を載せたコレラ予防の印刷物を近隣に配布している（『沼津新聞』明治一五年八月一〇日）。一七年（一八八四）には衛生行政の地域支援組織である岳東私立衛生会の幹事となっている。一八年（一八八五）三月には田方郡間宮村（現函南町）で眼科医亀井膽齋を招聘して診察所・病室を新築し、眼科医を開設した（『函右日報』明治一八年三月一八日、『静岡大務新聞』同年同月一九日）。また、二三年（一八八九）時点では、君沢郡大場村（現三島市）で開業していたことがわかってい

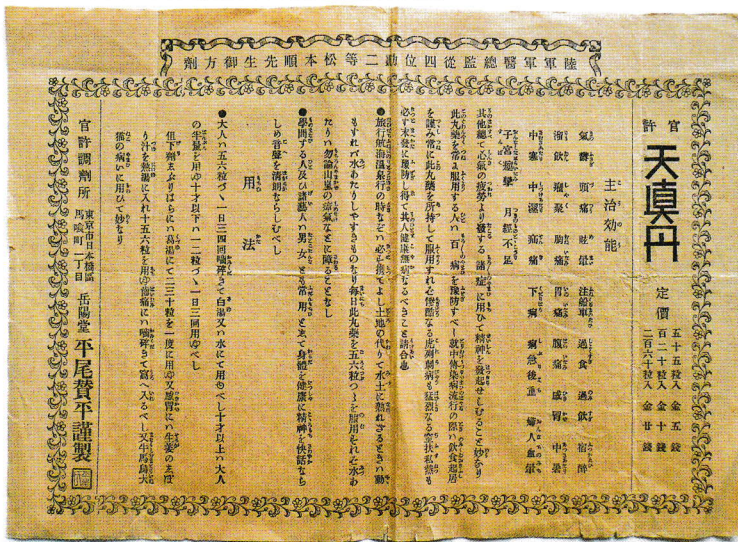
る（内務省衛生局編『日本医籍』）。東洋は郷里である原の菩提寺・徳源寺に眠る。戒名は法徳院全心恵照居士、没年月日は明治二六年（一八九三）七月二六日と彫られている。四十代前半で亡くなったのである。東洋には長男某がいたが、ジフテリアのため駿東病院長室賀録郎の手術を受けたものの、明治一六年四月に先立たれていた（『沼津新聞』明治一六年四月二二日）。東洋の墓石には「東京大河鎌吉・平尾贗平建之」とも彫られており、実業家平尾が成功のきっかけをつくってくれた恩人である東洋との交際を絶やさなかったことがうかがえる。この墓石の所在に関しては望月宏充氏のご教示を得た。記して感謝する次第である。

（樋口雄彦）



平尾贗平が売り出した香水「御にほひ袋 小町の袖」の包み紙
個人蔵

効能書の筆者である転々堂主人（高島藍泉・三代柳亭種彦）は沼津に住んだこともある旧幕臣出身の戯作者。



平尾贗平が販売した薬のチラシ
個人蔵

旧幕臣出身の陸軍軍医総監松本順が調剤したとされる。

平成30年度新収資料の紹介 昨年度、明治史料館に仲間入りした資料です。

寄贈	杉山 初雄 様 鈴木株式会社 様 工藤 和子 様 鈴野清治・笑子 様 杉山 彌三郎 様 山梨 晃徳 様 中島 康司 様 關 淳一 様 藤澤 裕武 様	岡宮杉山家文書 駿東病院薬瓶 シベリア抑留中の絵・手帳 塚原洪祐園自筆草稿 集束焼夷弾尾翼 静岡県立沼津高等学校卒業記念写真帳 最新沼津市詳細図 附静岡県略図 福羽美静より関近義宛書掛軸 藤澤次謙肖像画	購入	手伝) 纂訳『英和数学辞書』・中村六三郎(兵学校測量方)序文、松山温徳(資業生)校訂『航海表』・大川通久(資業生)『大日本鉄道一覽図』・島田三郎書簡(資業生)・「田口卯吉書簡」(資業生)・『杉田つる博士小伝』(杉田玄端孫)・「大日本朝野官民英名鑑」・佐久間信恭(附属小学校生徒)『英語研究二十講』『自修英語学大成』 静岡移住旧幕臣関係 津田真道(静岡学問所教授頭)『如是我觀』・秋山政篤(静岡学問所五等教授)訳『官版万国通史中編』・柏原学而(静岡藩立静岡病院医師)『羅斯古化学新書』・平山成信(静岡学問所生徒)著『明治戊辰ノ回顧』・吉川一水(沼津移住旧幕臣宮内盛重の孫)著『日々の糧』 沼津の歴史関係 「水野忠敬書簡」(沼津藩主、子爵)・沼津カトリック教会宣教師『必要力不必要力』 絵葉書 駿東郡蘭外五品々評会「沼津案内」・「三津海岸案内」・「沼津案内」
	寄託	上松 徹 様 上條 信彦 様 田邊 康雄 様		興国寺城絵図 三津金指家文書 田邊太一関係資料
購入	沼津兵学校関係 江原素六、田口卯吉、島田三郎寄稿『大日本』第1巻第1号、『我が江原素六先生』、『私立麻布中学校生徒手帳』・「黒田久孝書簡」(沼津兵学校教授)・山田昌邦(教授方			

平成30年度当館収蔵資料の使用 明治史料館の資料がいろいろなところで活躍しました。

☆展示使用

4月～6月	福井県教育総合研究所教育博物館 「幕末明治福井の教育―藩校の教育改革―」 「筆算訓蒙」 「英吉利会話編」 「荒川重平の図画ノート」 「荒川重平の英語ノート」
6月	(公社)静岡市文化振興財団「静岡発 近代日本のはじまり」 「御雇船乗込心得」 「旧幕臣の荷物送り状」 「沼津御役人附」 「静岡藩小学校校書」 「小島初学所校書」 「静岡県御官早見」
6月～1月	三島市郷土資料館 3市博物館共同企画展 「幕末・明治の富士・沼津・三島」 三島会場 「近代三島をつくった人々」 「競勢酔虎伝 伊庭七郎」
7月	富士市国際交流室 「ロシアとの自治体間交流の促進事業」 特別展 「地震之記」
8月～	(一社)Landscape ゲストハウスでの展示 写真「魚町」「湊橋」
9月～11月	福井県教育総合研究所教育博物館 「幕末明治福井の教育―近代教育のはじまり―」 「筆算訓蒙」 「荒川重平の図画ノート」
11月～12月	(株)SBSプロモーション 「しずおかHEART防災特別展」 内「しずおかの震災遺構・痕跡マップ」 「小林村変地之図」 「田地変ジテ湖水トナル」 (「地震之記」より)
12月～2月	静岡県埋蔵文化財センター 平成30年度巡回展 「いつもそばに動物がいた」 「愛鷹牧模型」 (パネル)
12月～1月	沼津信用金庫 「沼津兵学校創立150周年記念展」 「駿東病院薬瓶」、沼津兵学校関係展示パネル一式、模型
1月～5月	沼津市歴史民俗資料館 企画展 「沼津のひもの・かつおぶし」 「北条氏光印判状」 「水産博覧会出品解説書」 「武教全書」 「沼津商工案内」
2月～4月	沼津信用金庫 「地域防災企画展」 地震関係展示パネルセット

☆刊行物掲載

7月	吉川弘文館 岩下哲典『江戸無血開城の真実』 写真「勝海舟」(旧幕臣高橋家アルバム) 上毛印刷(株) 「富島運輸株式会社70周年社史」 写真「市政施行当時の沼津市役所」 「狩野川台風での山王通りの浸水」
11月	(株)レクテック 出版部門 出版舎・風狂童子「箱館戦争関係人物を歩く～探墓巡礼・谷中編」 写真「榎本長裕」
1月	沼津兵学校創立一五〇周年記念事業実行委員会『沼津兵学校記念誌』 「井口吾省のドイツ留学に際しての訓令」 写真「徳川家達」 「西周」 「塚原洪祐園」 「相磯格堂」 「静岡藩小学校校書」 「筆算訓蒙」 「療馬方符」 「富沢研道履歴書」 「鍼医木村簾道墓碑」 「駿東病院薬瓶」
2月	千葉県立関宿城博物館友の会 「月刊とも」 2・3月号 写真「沼津兵学校址碑」 「沢田学校所跡碑」
3月	暁星中学高等学校 『暁星学園紀要』 写真「静浦の望嶽」 (『沼津之菜』より)

☆テレビ等映像・その他

4月	フジテレビ 「なりゆき街道旅」 写真「永代橋下流右岸の魚市場」 (昭和初期) ・国輝画「末広五十三次 沼津」
5月	中京テレビ 「ニッポンまち自慢 3択クイズ ダマしてごめん!」 写真「永代橋下流右岸の魚市場」 (昭和初期)
6月	静岡朝日テレビ 「サタハビしずおか」 写真「さようなら蛇松線」 「蛇松線が走っていたころの魚市場」 「終点野炭場 (昭和10年)」 ・絵葉書「ミツ石鯉別荘、磯部菊溪画「蛇松」
8月	テレビ朝日「スーパー」チャンネル内「100歳だから語れる戦争」 写真「空襲後の沼津市街地」 米穀機構情報部 米穀機構ホームページ 「売価騰貴麹町区窮民救助褒状」 NHK-BS「ヘダ号の奇跡〜日本とロシア 新資料が語る幕末交流秘話」 「地震之記」 よりロシア人の様子など4点

人事異動

3月31日付で事務補助員渡邊愛子が退職。
4月2日付で事務補助員鈴木百合子が着任しました。
今後ともよろしくお願いたします。

【第136号の訂正】

「駿州赤心隊と原宿の庄司平五郎」において、蒲原宿の豪商・木屋渡辺家の一九代目当主利左衛門守亮が駿州赤心隊に参加したのではないかとしたが、彼は安政五年(一八五八)に没しているため、隊員だったのは彼の跡を継いだ婿養子ではないかと思われる。渡辺家は天保から慶応期にかけて、やはり赤心隊に加わった同宿の塩坂源右衛門家とともに、「加島五騎」と称し浅間大社の神事における流鏑馬役をつとめており(富士宮市教育委員会『富士山本宮浅間大社流鏑馬調査報告書』、二〇〇七年)、同社と深い関わりを有したこともわかった。ご教示いただいた渡邊和子様には感謝申し上げます。

(樋口雄彦)

沼津市明治史料館通信

第137号

平成31年4月25日

編集・発行 沼津市明治史料館
〒410-0051 沼津市西熊堂372-1
TEL055-923-3335
FAX055-925-3018
印刷 みどり美術印刷株式会社

